

## 近畿学校保健学会通信

№ 20

昭和46年7月10日

第18回近畿学校保健学会事務局

(657) 神戸市灘区鶴甲3丁目11

神戸大学教育学部教育衛生学教室

電話 神戸(078) 87-5131 内線2961

振替口座番号 神戸 42681

あ い さ つ

兵庫県教育委員会

教育長 白井康夫

六年ぶりに、近畿学校保健学会が、神戸で開催されることとなりました。この六年間の社会環境の変化は、学校保健の場においても、さまざまな変革をもたらしました。このため、「公害問題にどうとりくむべきか」「性教育はいかにあるべきか」さらには「精神衛生に関する問題はいかに処すべきか」等々あがってまいります。この時にあたって、会長 佐守教授を中心に、学会関係の方々が現在の学校保健における重要な共通テーマとして、「精神衛生」「安全教育」「保健指導」「環境衛生」「健康診断」の五つをとりあげ、それぞれの領域の第一人者を中心に、討論を展開するよう企画されましたことは、まことに、時宜を得たものとして、大いに期待をよせるものであります。そしてこの討論を通じて、教育界で唱えられる生命尊重の理念が、単にお題目に終ることなく、教育現場に強く密着することを願うものであります。

最後に、この学会が、盛会裡に、無事終了することを祈念し、また、今後益々、学校保健推進のため、ご尽力くださるようお願い申しあげてごあいさつと致します。

### 第18回近畿学校保健学会に際して

神戸市教育委員会

教育長 鈴木啓吾

産業の高度成長は、都市への人口移動をうながし、今や過密化した都市においては、高層建築がたちならび、職場と住宅を結ぶ高速道路や産業道路の発達、煤煙と排気ガスに汚染された空気、騒音と振動の渦の中で、日々の生活が著しく歪められつつあります。

教育基本法第1条に「心身共に健康な国民の育成を期する」ことが、教育の目的であると明示され、今回の学習指導要領の改訂にも総則第3に、その趣旨が十分に反映し表明されています。日常の教育活動の中で、児童生徒が自主的に自分の心身に関心を持ち、健康の向上のために必要な知識を得、正しい習慣、態度を身につけるよう教育を受けることは極めて重大な意義をもっています。

神戸市教委においても、本年度の教育の努力目標として、

1. 人間の尊重 —— ひとりひとりを尊重する心を高める。
2. 体力づくり —— 練られたからだどねばり強い心を育てる。
3. 心のふれあい —— 児童・生徒の心のふれあいを深める。

以上3本の柱を立て、各校園のすべての教職員が現実を深く見直し、決意を新たにして、真の教育の道を開こうとまい進しています。

健康の増進を計るために、生涯スポーツに親しみ、年齢にふさわしい体力づくりに精進できる場を設け、さらに調和のとれた健康生活が日々自主的に営むことができる能力を身につけさせることによって、児童生徒が人間の幸福や、生きがいを感じ、より楽しい学校生活がおくれるよう祈念する次第です。

この時にあたり、第18回近畿学校保健学会が神戸大学教育学部において開催され、学校保健に関する5つの専門分野から、問題点の解決と方途を現場に直結した方向で深められることは、まことによろこばしいことで、ご盛會を心からお祈りいたします。

## 第18回近畿学校保健学会幹事 追加名簿

(昭和46年6月20日現在)

|                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 井 辺 八 郎 (和歌山県学校保健主事研究会) | 荻 野 一 美 (兵庫県教委学校保健課)  |
| 奥 村 ツタ子 (和歌山県養護教諭会)     | 笠 松 勇 次 (和歌山大 教育)     |
| 楠 井 清 胤 (和歌山県学校歯科医会)    | 小 出 陽 造 (和歌山県学校保健連合会) |
| 合 田 梅 野 (大阪府養護教諭部会)     | 島 利 夫 (和歌山県薬剤師会)      |
| 住 岡 忠 雄 (和歌山県学校保健協議会)   | 巽 武 彦 (和歌山市教委)        |
| 立 石 光 代 (兵庫県教委学校保健課)    | 津 田 公 子 (大阪市養護教諭部会)   |
| 寺 岡 政 代 (大阪府私立学校養教部会)   | 戸 村 敏 雄 (和歌山県教委)      |
| 中 野 利 生 (和歌山県PTA連合会)    | 長 本 正 典 (兵庫県薬剤師会)     |
| 名 倉 久 子 (兵庫県養教研究連盟)     | 西 川 清 定 (和歌山県学校医会)    |
| 西 村 利 夫 (神戸市教委学校保健課)    | 細 原 広 (兵庫県学校歯科医会)     |
| 万 波 猛 夫 (兵庫県教委学校保健課)    | 安 田 慶 二 (大阪府学校医会)     |
| 山 田 一 (滋賀大 教育)          | 渡 辺 一 九 (兵庫県学校保健会)    |

(敬称略 五十音順)

# 第 18 回近畿学校保健学会 評議員名簿

(昭和46年6月20日現在)

## 大阪府

|         |         |          |         |         |         |
|---------|---------|----------|---------|---------|---------|
| 安 藤 格   | 安 積 和 夫 | 飯 沼 剛    | 池 田 振 郎 | 石 賀 濟   | 磯 部 豊 一 |
| 井 筒 和 子 | 井 出 市 蔵 | 伊 藤 嘉奈太  | 伊 藤 謙 吉 | 伊 東 祐 一 | 井 原 孝   |
| 今 井 英 夫 | 岩 橋 太 吉 | 梅 田 義 雄  | 近 江 栄美子 | 大 島 義 男 | 大 杉 政之祐 |
| 大 田 博 邦 | 大 西 敏 春 | 岡 田 静 雄  | 岡 田 弘 也 | 尾 花 茂   | 片 上 正 直 |
| 加 納 稔   | 上 延 富久治 | 上 林 久 雄  | 川 嶋 照 子 | 河 田 稔   | 瓦 谷 信太郎 |
| 貴 志 吉 子 | 北 田 実 男 | 窪 田 博 之  | 小 池 宜 之 | 合 田 梅 野 | 小久保 昇 治 |
| 湖 崎 克   | 後 藤 章   | 後 藤 英 二  | 小 西 儀 一 | 小 林 彌 毅 | 紺 谷 茂   |
| 阪 井 正 雄 | 篠 田 忠 夫 | 嶋 田 豊 春  | 嶋 田 良 造 | 下 山 ミチ子 | 須 藤 勝 見 |
| 高 階 義 登 | 高 木 俊一郎 | 詫 間 晋 平  | 武 市 直 門 | 竹 内 和 子 | 棚 橋 馨   |
| 但 野 走 馬 | 津 田 公 子 | 津 田 勝    | 寺 岡 政 代 | 寺 内 幸 雄 | 戸 谷 一 郎 |
| 中 井 善一郎 | 長 沢 治 恵 | 中 島 慶 彦  | 仲 谷 龜太郎 | 中 村 篤 夫 | 西 窪 敏 夫 |
| 西 田 富 美 | 西 弘 次   | 野 口 陽 二  | 橋 爪 鶴 楠 | 長谷川 等   | 原 田 竜 夫 |
| 東 田 組 子 | 福 井 兼太郎 | 藤 井 才 系  | 藤 井 正 男 | 富 士 貞 吉 | 藤 下 成 周 |
| 藤 田 順 治 | 細 川 親 文 | 細 部 新 一郎 | 前 川 勇 一 | 牧 淳     | 松 山 トシエ |
| 丸 岡 隆 二 | 圓 山 一 郎 | 三 井 正 巳  | 宮 前 礼 二 | 森 茂一郎   | 守 友 清   |
| 森 山 貞 信 | 森 山 八 郎 | 八 木 常 行  | 安 田 慶 二 | 山 口 龍 之 | 山 本 勝 朗 |
| 山 本 紀 子 | 湯 浅 高 義 | 弓 場 靖    | 吉 田 恒 二 | 吉 田 福 子 | 吉 田 満   |
| 吉 田 泰   |         |          |         |         |         |

## 京都府

|         |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 奥 瀬 昭   | 大 島 要   | 大 山 良 徳 | 景 山 幸 雄 | 勝 馬 登喜蔵 | 桂 誠 一   |
| 川 畑 愛 蔵 | 小 西 博 喜 | 坂 本 ハ ル | 坂 田 三 一 | 桜 井 英 徳 | 瀬 戸 進   |
| 高 島 文 一 | 高 田 喜太郎 | 立 川 明   | 富 部 修   | 永 田 久 紀 | 中 本 尊 子 |
| 西 田 義 文 | 平 野 栄 信 | 前 田 泰 宏 | 松 浦 義 行 | 三 宅 義 信 | 宮 田 尚 之 |
| 宮 田 英 子 | 山 岡 誠 一 | 山 岸 敏 男 | 吉 岡 文 男 | 米 田 幸 雄 |         |

## 兵庫県

|         |         |         |           |         |         |
|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| 石 井 一   | 和 泉 正 人 | 稻 次 優   | 今 出 悦 子   | 巨 田 泰 信 | 大 西 純 二 |
| 荻 野 一 美 | 加 藤 哲 夫 | 兼 吉 太 郎 | 喜 田 村 正 次 | 国 森 良 信 | 近 藤 文 子 |
| 佐 守 信 男 | 武 田 真太郎 | 竹 村 一   | 常 松 喬     | 塚 本 利 之 | 出 口 庄 佑 |
| 戸 田 嘉 秋 | 富 崎 極   | 長 本 正 典 | 名 倉 久 子   | 立 石 光 代 | 西 村 利 夫 |
| 丹 羽 正   | 野 瀬 善一郎 | 畑 岡 瑞 夫 | 細 原 広     | 万 波 猛 夫 | 森 西 正 男 |
| 守 屋 光 雄 | 山 城 正 之 | 横 尾 能 範 | 吉 村 恵 江   | 渡 辺 一 九 |         |

(次頁へつづく)

奈良県

岩崎清子 緒方肇一 喜八郎 小林秀男 佐々木貫也 橋重美  
土居正一 永井 中牟田正幸 萩法雄 平井五兵衛 森本 稔  
森村文治

和歌山県

池田悦子 井上 彬 井辺八郎 岩尾文夫 奥野楠次郎 奥村ツタ子  
小沢忠治 笠松勇次 川口 修 川口 宏 川口吉雄 楠井清胤  
寺西登代子 小出陽造 島 利夫 白川 充 住岡忠雄 巽武彦  
戸村敏雄 中野利生 中元藤茂 西川清定 福島太一 松下瑞澄  
森 栄次郎 山本豊治 吉田隆雄

滋賀県

有馬和広 植村良雄 大杉春雄 大西輝彦 大原重信 尾田芳三  
片岡慶有 川村輝雄 櫻場大喜雄 久保井道雄 佐々木 憲海 佐治 広  
佐藤 守 嶋沢良一 白倉一夫 高倉 悟 竹下茂夫 多田一夫  
立木彌太郎 谷口 正 堤 正男 中沢 敏 成子作郎 平川忠男  
広田 明 細井 毅 本原貫一郎 薬師川 甫 山口隆三 山田 一  
山之内 種清 吉川貞江 和田節雄

(敬称略 五十音順)

事 務 局 記 事

1. 第2回幹事会議事録(抄) 昭和46年5月29日神戸大学教育学部に於て開催

- 特別講演者推薦のアンケートの結果をもとにして6名の演者を選び、講演依頼の手続きを進めることになった。  
各演者をお願いする主題と当日の司会者についても検討した。(付記:その後佐守会長から各演者をお願いした結果、1名の演者だけは日程の都合でお引き受け願えなかったが、他の演者については快諾を得ることができた。)
- 学会当日の運営予算について検討した結果、参加会員の負担を軽くするよう努力したが、会費の他に会場費200円を参加会員に負担してもらうことになった。
- その他の企画の細部については、別掲の開催要項のとおり決定された。
- 幹事の追加並びに評議員については、各府県から推薦された方々について、別掲名簿のとおり会長名で委嘱することになった。

2. そ の 他

- 学会通信19の特別講演者推薦のアンケートに、近畿各地の多くの方々から応募していただき有難うございました。
- このたびの第18回近畿学校保健学会は、われわれ会員によって希望しました5名の特別講演演者が遠路はるばる来ていただき貴重な話題提供をされるのでありますから、多数の方々のご参加をお待ちしております。